福島市立清明小学校　　学校だより　令和３年２月１２日　第４６号　　〈文責〉校長

みんなとともに笑顔いっぱい　ー「１０１」新たなるステージへ ー

みんなとともに

三代前の校長である添田和子先生がお亡くなりになりました。退職後は、県教委の教職員相談員を長く務められました。また、昨年度、本校ＰＴＡが担当した市連Ｐ家庭教育推進委員会の研修会では、講師としてお人柄の表れた温かな話を各校代表の方にしていただきました。さらには、創立百周年記念式典にも出席していただきました。本校を支えていただいた添田先生のご冥福をお祈りいたします。

〈令和２年度「本校教育活動」の検証　その５〉

「道徳教育」に力を入れている成果はでているか

本校では、「道徳科」を研究教科として、子どもたちの「心の教育」を推進しています。その成果を「道徳意識調査」の結果からとらえてみました。

◇道徳の勉強は、すきだ。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	74%	91%	84%	82%
１2月	92%	86%	86%	88%

◇道徳の授業で自分の生き方について考えている。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	91%	89%	82%	87%
１2月	91%	80%	90%	88%

◇自分にはよいところがある。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	89%	83%	74%	82%
１2月	76%	80%	86%	81%

◇将来の夢や目標をもっている。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	91%	94%	93%	92%
１2月	92%	98%	90%	93%

◇人の気持ちの分かる人間になりたい。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	94%	100%	93%	95%
１2月	95%	96%	99%	97%

◇いじめはどんな理由があってもいけないことだ。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	100%	100%	100%	100%
１2月	100%	100%	100%	100%

◇学校のきまりを守っている。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	99%	98%	96%	97%
１2月	95%	92%	96%	95%

◇自分の住んでいる町やふるさとが好きだ。

	低学年	中学年	高学年	計
6月	94%	96%	95%	95%
１2月	98%	90%	96%	95%

〈分析〉「意識調査」であるので、実際に「実践」に結び付いているかどうかは分からない。ただ「６月」よりも「12月」の方が、概ね望ましい結果となっている。設問の内容を見ると、子どもたちの「やさしさ」や「思いやりの心」が伝わってくる。「自分にはよいところがある」は、他に比べて、やや低い。これは「自己肯定感」につながる設問だが、この傾向は、本校の継続した課題となっている。

【校長のつぶやき】　その５７　「待つことの大切さ」

毎朝、昇降口の前に立ったり、地域の中を歩いたりしている。「子どもたちの見本になろう」という気持ちもあるので、子どもの顔を見ると、先に「おはよう」と、あいさつをする。あいさつが返ってこなかったり、あいさつの声が小さかったりして、何となくガッカリすることもある。

ちょっとイタズラな気持ちが湧いてきて、子どもが近づいてきても、先にあいさつをしないで待ってみた。子どもたちの距離感はバラバラで、遠くからあいさつのできる子もいるし、ぎりぎりまで来てから「おはようございます」と言う子もいる。ただ、概ねあいさつをしていることは分かった。

そこで、ハタと思ったのだが、自分が先にあいさつをすることで、子どもが先にあいさつをするチャンスを奪っていたとも言えるのではないだろうか。校長のあいさつを受けてからあいさつを返すという歪んだ関係性が身に付いてしまったとも言えるのではないだろうか。このように思ってからは、あいさつをするのをグッとがまんして、子どもがあいさつをするのを“待つ”ようにしている。そして、子どもがあいさつをしてから、「先にあいさつをしていていいね」とか「遠くからあいさつができているね」とか、プラスのフィードバックをするようにしている。

ほかにも似た場面はあるように思うのだが、子どもの成長にとって「待つこと」も必要なことだと再認識した。ただ「待つこと」は心理的に結構つらいことも痛感している。